



東村山市子ども読書活動推進計画

(平成17年度～21年度)

進捗状況報告③『きょういく東村山』より

学校と地域を結ぶ人材バンク



子どもが読書を楽しめるようになるには、子どもと本の橋渡しをする人が必要です。

本計画では、子どもたちがいろいろな機会に本と触れ合うことができるよう、子どもと本をつなぐ人的体制づくりを進めています。

今回は、地域の方のご協力による学校での読み聞かせ活動を紹介します。

子どもと本の人材バンク

図書館では、子どもの読書に関する施策の報告や、市内で子どもと本にかかわる活動をしている方々の交流の場として、年2回「東村山子ども読書連絡会」を開催しています。

この会を母体として「子どもと本の人材バンク」を設置し、読み聞かせをする方々と実演等を求める市内の機関や団体とをつなぐ取り組みをしています。

小学校での読み聞かせ

今年4月、秋津東小学校からの依頼を受けて、秋津地域に住む人材バンク登録者4名の方を派遣しました。

内容は、1年生各学級での読み聞かせ。担任・ボランティア・図書館の三者で、この活動の目的、読む本などについて打ち合わせを重ね、6月から月2回、朝の自習時間に実施しています。

始業前、「ようこそ、おはなしの国へ」と黒板に貼られた教室で待つ子どもたち。ボランティアの方による絵本や紙芝居が始まると、すぐにお話の世界に入り込み、笑い声をたてたり、結末にほっとした表情を見せたり、素直な反応を返します。

帰宅後は、今日のお話の筋を家族に話して聞かせることになっています。保護者の方からは、子どもからの報告を毎回楽しみにしているとの声も届きました。お話を通じて、親子の対話が広がっていけば、本への興味も一層増すことと思います。

一方、ボランティアの方は、街を歩いていると子どもから「お話のおばちゃんだ!」と声がかかるそうです。本を通して、人のつながりが地域で広がっていくうれしい場面です。

ボランティアへの支援

本が好きで、子どもに本の良さを伝えようという気持ちがあれば、読み聞かせは誰にでもできる楽しい活動です。ただ今回のような学校教育の場で行う場合は、本選びや学校でのふるまいについて配慮すべきこともあります。

図書館では、「子どもと本の人材バンク」の活動が一層充実したものになるよう、今後も情報提供や研修等の支援を行っていく予定です。

『きょういく東村山』第49号より

平成18年9月20日号

編集・発行 東村山市教育委員会